

平成25年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力 「視覚障がいリソースセンター建設計画」引渡式

2017年1月26日、中野大使夫妻は、キングストン市内のジャマイカ盲目協会にて行われた、平成25年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「視覚障がいリソースセンター建設計画」の引渡式に出席し、国内の視覚障がい者に対し様々なサービスを提供するリソースセンターを寄贈しました。

世界保健機構（WHO）の統計によると、現在、全世界の視覚障がい者数は2億8,500万人にも上ります。ジャマイカ国内では全人口の約4パーセントとなる10万8,000人が弱視および全盲の視覚障がい者であり、ジャマイカ盲目協会は1954年の設立依頼、眼病相談や検査等、様々なサービスを無償で提供してきました。このプロジェクトでは既存のセンターの2階部分に治療室やオフィスを増築すると共に、センターの運営費を削減するためのソーラーパネルの設置を行い、国内の視覚障がい者に対し更に包括的なサービスを提供することにより、全盲や弱視によって苦しむ人の数の減少に貢献することを目的としています。

当日の引渡式へは、パトリック・アレン総督夫妻、シモン・スペンス保健省保健サービス計画・統合局長、キャサリン・ドーソンショウ国家保健基金個人扶助担当課長、同リソースセンター関係者など約50名が参列しました。総督をはじめとする来賓は、式典でのスピーチで日本の支援への謝意を表すとともに、新しいリソースセンターを大切に使い、弱視者をはじめとする国内の視覚障がい者をサポートするために更なる支援を惜しまないと述べました。

中野大使は、障がいを含む社会的弱者を支援する事は、人間の安全保障の観点から非常に重要であり、ジャマイカ盲目協会とパートナーとなり同プロジェクトを通じ視覚障がい者を支援できた事を大変嬉しく思うと述べました。



視覚障害リソースセンター（2階部分）



中野大使による挨拶



テープカットをする総督夫妻



視力検査を受ける総督と
見守る中野大使